

大江遺跡群

(おおえいせきぐん)

大江遺跡群は熊本市の市街地に位置し、熊本市を貫流する白川にほど近い段丘上に立地しています。熊本市の中でも注目すべき遺跡の一つで、奈良～平安時代の集落が密集する遺跡です。

特筆されるのは、律令時代の幹線道路である西海道駅路が遺跡を南北に貫いていて、場所によってはこれが良好な形で地下に残されていることです。

調査では幅 11m以上の道路跡が、長さ 60mにわたってみつき、近隣の調査でも、これに続く道路跡を確認しています。



道路跡の調査

調査範囲を斜めに貫く黄色の部分が道路。先には熊本大学と龍田山西麓が見えます。



道路跡の施工面

凹凸をつくり、砂利をつめる。

「西海道」は律令時代の九州の名称で、当時西海道を統括していた大宰府と西海道各国の国府とをつなぐ道路が「西海道駅路」です。緊急時の連絡、役人の移動、税・献上品の運搬など公的な目的に使用された大規模道路で、全国を網羅する様子は現在の高速道路に近い状況だったと思われます。官道沿いに一定間隔で設置された駅家（うまや）には馬が配備され、役人は駅家で馬を乗り換えながら目的地へ向かいます。大江遺跡群で見つかった道路跡は、蚕養（こかい）駅と球磨（くま）駅（現宮地～隈庄）の間を南北に繋ぐ部分にあたり、現在の「子飼」は「蚕養駅」の名称が残ったものと考えられます。